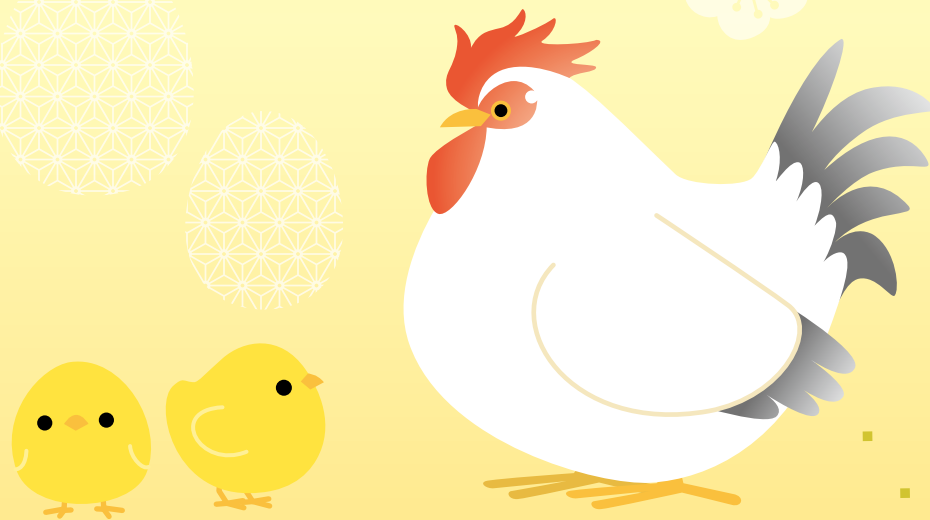


— 熊本地震から8か月 —



Q1 熊本地震のとき何してた？どう感じた？

Q2 平成29年はどんな年にしたい？



仮設住宅に住む方の自立をサポートしたい

A1)

前震のときは家にいて、くつろいでいました。本震のときは自宅の庭で車中泊中でした。自宅が全壊したため、塚原仮設住宅に入り、今は自治会長をしています。



塚原仮設住宅 自治会長
清田 純一さん

A2)

自治会長の立場から、塚原仮設住宅の皆さんが自立されることを願っています。平成28年はコミュニティづくりに重点を置いてきましたが、平成29年は、行政とも連携しながら自立される方の支援に趣を変えていきたいと考えています。平成28年中に作り上げてきたコミュニティを大事にして、仮設住宅を出られる方の後押しができればと思っています。

もっと日本語を学びたい

A1)

熊本には今年の4月に移り住んだので、突然の地震に驚きました。妻と子どもと自宅にいましたが、揺れが強くて怖かったですね。自分は日本語がまだあまりわからなかったので、避難した際などは不便に感じました。スリランカの両親も心配していましたし、子どもたちもまだ怖がっています。



市内在住スリランカ人
マナゲ ワサンタ
Manage Wasanthaさん

A2)

もっと日本語を学びたいです。わたしには小学生の子どもがいますので、宿題なども教えてあげたいです。そのほか希望としては、自分と同じスリランカ人が熊本にもっと増えたら嬉しいですね。日本語学校がもっと増えればスリランカ人が移住しやすくなるんじゃないかなと思います。

我が子との時間を大切に

A1)

前震は西区の自宅、本震は実家にいました。自宅は濁った水が出たり、数日車中泊をしたりと、小さい子どもがいることもあって大変でしたね。地震前は市の施設によく子どもと出かけていましたが、しばらくは地震の影響で利用できずに、遊ばせる場所が少なくて困りました。



主婦
白石 直子さん 笑理ちゃん

A2)

子どもがもうすぐ2歳になります。3歳で保育園に預けようかと考えているので、長く一緒に過ごせる最後の1年だなと思います。最近是自己主張がしっかりしてきて大変ですが、やはり可愛い我が子です。なるべく子どもとの時間を大切にしていきたいですね。

大西市長から、市民の皆さんへ

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、熊本地震の影響により市内各所で甚大な被害が発生し、市政始まって以来の未曾有の大災害となりました。年頭にあたり、改めまして、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。また、発災からこれまで、多くの皆様方より温かいお力添えをいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

本市におきましては、皆様のご支援ご協力に支えられながら、被災された方お一人おひとりの生活再建支援を最優先に、一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりました。

昨年10月には、震災からの復旧・復興の実現に向けて取り組んでいく道標となる「震災復興計画」を策定したところであり、発災から約9か月が経過した現在では、学校施設などのインフラ復旧をはじめ、被災された方々の恒久的なお住まいの確保に向けた取組みなど、一歩ずつ着実に歩みを進めております。

新たに迎えます本年は、この計画が本格的に動き出す大変重要な年となります。今なお不自由な生活を強いられている方々の生活再建支援はもとより、それを後押しする地域経済の活性化、さらには、熊本城の復旧・市民病院の再生など、復旧・復興に向けての取組みを更に加速させてまいります。

また、今回の地震では、地域全体で互いに支え合う「地域力」の重要性を改めて確信したところであり、地域のつながりを築く防災訓練の実施や、コミュニティの活性化など地域力を高める多様な取組みを進めながら、「安全・安心」で「上質な生活都市」の実現を目指してまいりますので、皆様方にはより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



▲平成29年の一字